

令和3年度第4回佐倉市行政評価懇話会

- 1 日 時 令和4年3月29日（火）13時30分～16時00分
- 2 会 場 1号館3階会議室
- 3 議 事
 - （1）行政評価に関する提言書（案）について
 - （2）地方創生拠点整備交付金等事業について（スマートオフィスプレイス見学）

資料

- ・資料1 令和3年度行政評価に関する提言書（案）
- ・資料2 佐倉市スマートオフィスプレイスの事業報告

令和3年度
行政評価に関する提言書（案）

令和4年3月

佐倉市行政評価懇話会

目 次

I. はじめに.....	2
II. 行政評価懇話会 活動状況.....	3
III. 行政評価の概要.....	4
1. 第5次佐倉市総合計画・前期基本計画の体系.....	4
2. 第5次佐倉市総合計画・前期基本計画の重点目標.....	5
3. 評価対象.....	6
4. 評価方法.....	6
IV. 行政評価結果.....	7
1. 全体の総括的評価.....	7
2. 各基本施策に関する評価・提言.....	8
(1) 子育て支援.....	8
(2) 学校教育.....	10
(3) 商工業振興.....	12
(4) 農業振興.....	14
(5) 住宅・住環境.....	16
(6) 環境保全.....	18
(7) 情報発信・共有、広聴.....	20
別添 佐倉市行政評価懇話会委員名簿.....	22

I. はじめに

佐倉市行政評価懇話会は、市内部による行政評価結果を点検し、基本施策等の取組の方向性及び手段等についての提言を行い、その実効性を高めることを目的として設置された機関です。

評価の対象は、令和2年度から令和5年度までを計画期間とする「第5次佐倉市総合計画・前期基本計画」における各施策の進捗状況であり、その中でも、特に4つの重点目標に係る基本施策の進捗状況について、重点的に評価を行うことといたしました。

4つの重点目標は、計画期間において人口減少や少子高齢化がより一層進むことが想定される中、定住人口や交流人口の増加を図るため、良好な住環境の整備や産業の活性化を図る必要があるとの観点から、「市民協働の加速化」「健康寿命の延伸」「子育て世代の流入」「持続可能な財政運営」等を設定しています。

今年度の評価は、重点目標3「子育て世代の流入・定住促進、子育て支援施策等の維持拡充」に係る基本施策の令和2年度における取組みを対象とし、市が行った行政評価結果の検証を行いました。検証に当たっては、市の担当部署からの報告に対し質疑応答を行い、外部評価機関としての立場から、市の内部評価結果の妥当性や改善に向けた提言などを、本提言書に取りまとめました。

市においては、本書による改善に向けた提言を、今後の施策の立案や具体的取組みに活かし、市の将来都市像である「笑顔輝き 佐倉咲く みんなで創ろう『健康・安心・未来都市』」の実現に向け、重点目標に掲げられた施策をより一層推進されることを期待します。

令和4年3月29日

佐倉市行政評価懇話会
委員長 小川 真実
副委員長 栗田 智
委員 飯塚 香奈子
委員 稲垣 かおる
委員 泉水 宏之
委員 立崎 貴子
委員 藤本 健太郎

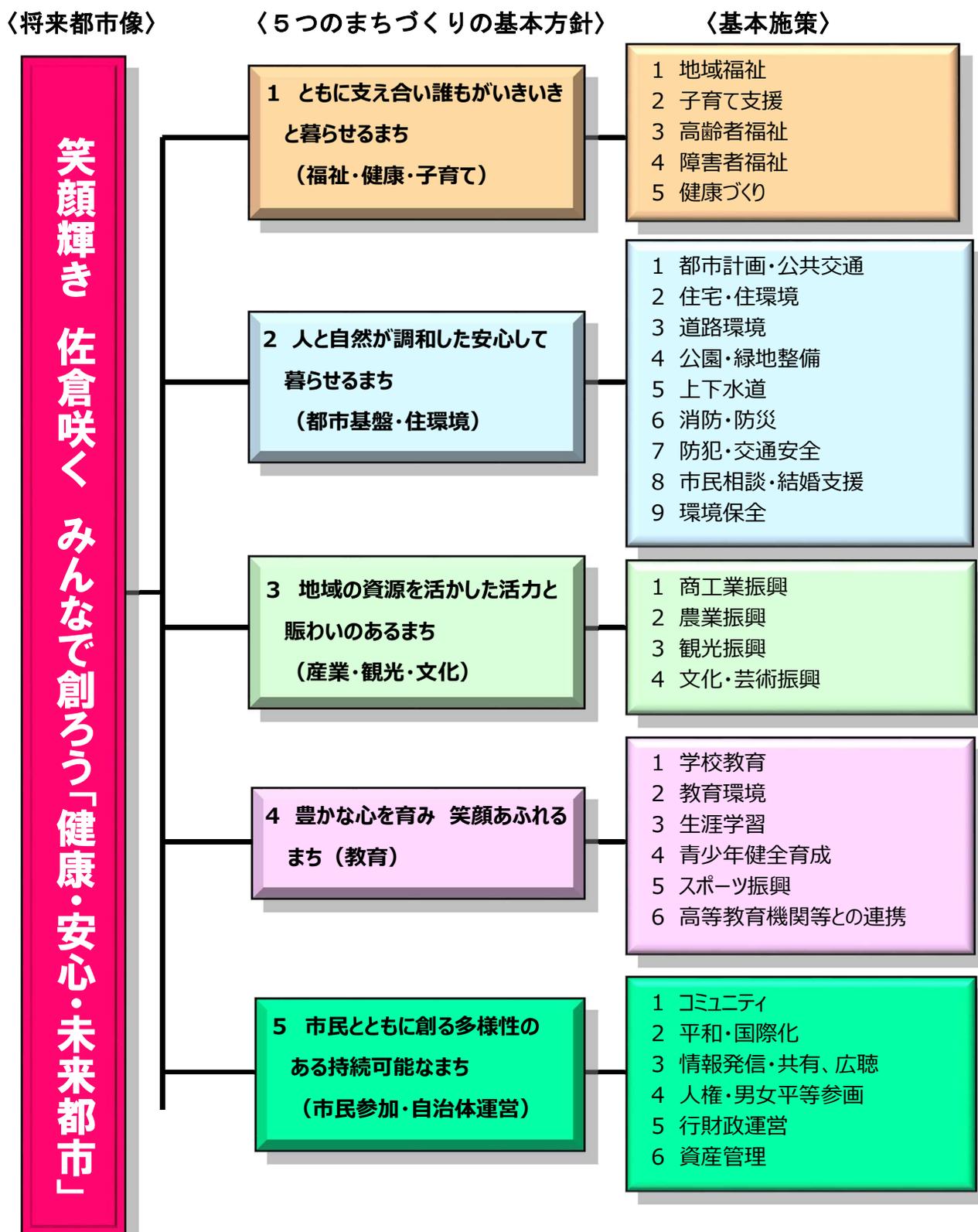
II. 行政評価懇話会 活動状況

	日 時 ・ 場 所	活 動 内 容
第 1 回	8 月 4 日 (水) 13 : 30 ~ 15 : 10 1 号館 3 階会議室	①令和 3 年度の懇話会スケジュール ②令和 2 年度における各基本施策の進捗状況について ③重点目標評価の進め方について
第 2 回	10 月 29 日 (金) 13 : 30 ~ 16 : 30 議会棟全員協議会室	①基本施策評価についての担当課質疑 (子育て支援・学校教育・情報発信等) ②新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した事業について
第 3 回	12 月 15 日 (水) 13 : 30 ~ 16 : 25 議会棟全員協議会室	①基本施策評価についての担当課質疑 (住宅・住環境、環境保全、農業振興、商工業振興) ②行政評価に関する提言書案 (前回会議分) について
第 4 回	3 月 29 日 (火) ①13 : 30 ~ 14 : 30 1 号館 3 階会議室 ②15 : 00 ~ 16 : 00 佐倉市スマートオフィス プレイス	①令和 3 年度行政評価に関する提言書について ②地方創生拠点整備交付金等事業について (スマートオフィスプレイス見学)

Ⅲ. 行政評価の概要

1. 第5次佐倉市総合計画・前期基本計画の体系

第5次佐倉市総合計画では、将来都市像の実現を目指し、5つのまちづくりの基本方針のもと、施策の推進を図っています。



2. 第5次佐倉市総合計画・前期基本計画の重点目標

<重点目標>	<位置付けられる基本施策>
①市民協働の加速化、 持続可能なまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○地域福祉 ○生涯学習 ○高等教育機関等との連携 ○行財政運営 ○コミュニティ ○商工業振興
②健康寿命の延伸・ 生涯活躍の場の創出	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者福祉 ○スポーツ振興 ○生涯学習 ○健康づくり ○商工業振興
③子育て世代の流入・定住促進、 子育て支援施策等の維持拡充	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援 ○商工業振興 ○住宅・住環境 ○情報発信・共有、広聴 ○学校教育 ○農業振興 ○環境保全
④計画的な施設・インフラ整備の 推進、持続可能な財政運営	<ul style="list-style-type: none"> ○都市計画・公共交通 ○道路環境 ○行財政運営 ○資産管理

3. 評価対象

評価対象は、「第5次佐倉市総合計画・前期基本計画」における各施策の進捗状況です。中でも、特に4つの重点目標に係る基本施策の進捗状況について、令和2年度から令和6年度までを計画期間とする「第2期佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における具体的施策とも多く関わることから、重点的に評価を行うこととしました。

今年度の評価は、4つの重点目標のうち、重点目標3「子育て世代の流入・定住促進、子育て支援施策等の維持拡充」に係る以下の7つの基本施策について、令和2年度における取り組みの評価を行いました。

- (1) 子育て支援
- (2) 学校教育
- (3) 商工業振興
- (4) 農業振興
- (5) 住宅・住環境
- (6) 環境保全
- (7) 情報発信・共有、広聴

4. 評価方法

(1) 内部評価

市内部の評価として、各基本施策の取りまとめ推進課・関係課において、「基本施策評価シート」により施策の進捗状況の自己評価を行いました。総合評価の判定（A～E）に当たっては、成果指標の進捗状況を7割程度、施策内の事務事業評価結果を3割程度の比重とし、総合的に判定することとしました。A～Eの判定内容は、以下のとおりです。

- | | |
|---|----------------------|
| A | 順調に進捗し、効果が上がっている |
| B | 概ね順調に進捗し、一部効果が上がっている |
| C | 半分程度は進捗している |
| D | 一部進捗している |
| E | 例年より後退 |

取りまとめ推進課等における自己評価の後、市の内部評価機関である行政評価委員会において、「基本施策評価シート」の妥当性の評価と質疑を行った上、内部評価の決定を行いました。

(2) 外部評価

行政評価委員会における内部の評価後、外部評価機関である行政評価懇話会からの評価として、「基本施策評価シート」を確認し、基本施策の担当部署より、自己評価の内容や、成果指標について目標値に達しなかった要因、今後の改善策などについての説明を受け、質疑応答を行いました。その結果を踏まえ、市の内部評価結果の妥当性を検証の上、改善に向けた提言などを取りまとめました。

IV. 行政評価結果

1. 全体の総括的評価

第5次佐倉市総合計画・前期基本計画の重点目標3に係る7つの基本施策の、市内部による評価と、行政評価懇話会による評価の妥当性の検証結果は、以下のとおりです。

	基本施策	市内部による評価	懇話会による妥当性の検証結果
1	子育て支援	B：概ね順調に進捗	内部評価を下回っている
2	学校教育	C：半分程度進捗	妥当
3	商工業振興	B：概ね順調に進捗	妥当
4	農業振興	B：概ね順調に進捗	妥当
5	住宅・住環境	B：概ね順調に進捗	妥当
6	環境保全	B：概ね順調に進捗	内部評価を下回っている
7	情報発信・共有、広聴	B：概ね順調に進捗	内部評価を上回っている

7つの基本施策のうち4つは「妥当」、2つは「内部評価を下回っている」、1つは「内部評価を上回っている」との検証結果となりました。

「内部評価を下回っている」とした基本施策のうち、「子育て支援」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により学童保育所の休園など、各種子育て支援サービスが低下した状況にあったことが主な要因となりました。また、「環境保全」は、成果指標のうち2つの実績値がまだ公表されていない状況であったため判断が難しい面もありましたが、全体として成果指標の達成状況が高くなかったことが主な要因となりました。

そのほかの基本施策については「妥当」又は「内部評価を上回っている」と評価し、概ね市内部の評価は妥当であったものと考えます。

評価に当たり、全体の傾向として、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、これまでどおりの施策の実施が困難であり、成果指標の目標達成が難しかった状況が見られました。その一方、オンラインによる事業実施などの工夫や、中小企業支援、市公式LINEによるワクチン接種に関する情報発信など、新型コロナウイルス感染症拡大に対応した事業の実施が図られ、各担当部署における努力がうかがえました。

今回評価を行った重点目標3に係る基本施策は、人口減少社会における市の定住人口増加という大きな目標を担う柱となるものですので、各基本施策の担当部署におかれましては、改善に向けた提言や意見を踏まえ、更なる施策の推進に取り組んでいただきますよう、お願いいたします。

また、新型コロナウイルス感染症拡大により、社会情勢が大きく変化し、行政に求められるものや必要なサービスもこれまでとは変わってくるのが想定されますので、これまでの施策内容や方法にとらわれず、新たな視点で施策を組み立て、実行していかれることを、今後期待します。

2. 各基本施策に関する評価・提言

(1) 子育て支援

<市による評価・検証結果（内部評価）> 基本施策評価シート

基本方針	1:ともに支え合い誰もがいきいきと暮らせるまち(福祉・健康・子育て)	基本施策名	2. 子育て支援	取りまとめ推進課		こども政策課		
				関係課		こども保育課、こども家庭課、母子保健課		
12年後の目指す姿	市民が安心して子育てできる環境が整っており、全ての子どもたちが笑顔で健やかに育つ社会を目指します。	施策に係るコスト(千円)		2年度	3年度	4年度	5年度	
4年間の取組(施策の内容)	妊娠、出産から子育てまでサポートできる環境の更なる充実を図り、結婚・出産・子育ての希望が叶う環境づくりに取り組みます。妊娠・出産・育児期における母子保健対策の充実に取り組むとともに、家庭や地域で子どもを育てる環境づくりに取り組みます。							
施策の評価	評価(A~E)	(施策の総括・成果)						
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・佐倉市健康増進計画「健康さくら21(第2次)や第2期子ども・子育て支援事業計画等関連する個別計画に基づき、子育て支援の推進に取り組みました。 ・新型コロナウイルス感染症が拡大する中においても、保育業務等に従事する者に対し慰労金を交付する事業や感染拡大防止策を講じながらの訪問・相談事業や幼児健診、低所得のひとり親世帯等に対する臨時給付金支給事業など多くの事業に取り組み、市民が安心して子育てできる環境の確保を図ったことから、評価をBとします。 						
新規又は重点的に行った取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・【R2新規】新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発令後も保育業務等に従事する者に対し慰労金を交付。 ・【R2新規】「WELove赤ちゃん」プロジェクトを実施し、「子育てにやさしいまち佐倉」をPR。 ・【R2新規】低所得のひとり親世帯等に対する臨時給付金を支給。 ・【R2新規】里帰り困難妊産婦への育児支援サービス費用助成事業を実施。 	今後の改善策・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の拡大による保育園の新規申込者数の大幅な減少が一時的な傾向であるかなど保育にかかる需要動向に注視する必要があります。 ・訪問・相談事業や幼児健診等の母子保健事業は子どもの健やかな成長や保護者の身近な相談の場として、感染防止対策を講じながら継続していく必要があります。 					
成果指標の進捗状況①	指標名	初期値(H30)	目標値	達成状況				
	子育て支援サービスについて、「満足」「やや満足」と回答した市民の割合 (こども政策課)	46.9%	目標値	2年度	3年度	4年度	5年度	
			実績	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	
			達成率	47.2%	—	—	—	
目標値の考え方・根拠	市民意識調査による。調査へ回答した人の5割以上を目指します。 達成率：(実績値-初期値) / (目標値-初期値) × 100							
目標値達成に向けての取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代包括支援センターの運営や一時預かり事業、地域子育て支援拠点事業など各種子育て支援サービスの実施(通年) ・こほう佐倉子育て支援特集号の発行(3月) ・【R2新規】WELove赤ちゃんプログラムに係るクラウドファンディングの実施(11月~1月) 							
目標値に達しなかった場合の要因	新型コロナウイルス感染症の影響により、子育て支援サービスの利用が落ち込んでいることが一因と考えられます。	今後の改善策・方向性	令和3年度に新たにこども支援部を組織しました。こども支援施策は、市の重要施策の一つとらえ、新たな事業についても研究・検討を重ね、組織横断的に連携し、さらなる充実を図ってまいります					
成果指標の進捗状況②	指標名	初期値(H30)	目標値	達成状況				
	待機児童数 (こども政策課)	15人 (H30年4月1日)	目標値	2年度	3年度	4年度	5年度	
			実績	0人	0人	0人	0人	
			達成率	0人 (R3年4月1日)	—	—	—	
目標値の考え方・根拠	保育園の待機児童0を目指し、達成後は維持します。 達成率：(初期値-実績値) / (初期値-目標値) × 100							
目標値達成に向けての取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・民間保育園の新規開設や私立幼稚園の認定こども園への移行、また既存施設の定員拡大など施設整備への支援 ・令和3年度の保育園等認可定員は2,918人(44園)、対前年度比65人増(1園増)(参考:令和2年度2,853人(43園)) 							
目標値に達しなかった場合の要因	—	今後の改善策・方向性	保育にかかる需要動向を十分に考慮する中で、引き続き、子どもたちが健やかに育つことができる環境の整備に努めてまいります。					
内部評価結果(令和3年7月21日行政評価委員会)	妥当							
内部評価についての意見等	保護者の勤務スタイルの多様化により、保育園等における預かりの多様なニーズが生まれてきており、一時預かりをより簡単に利用できるような仕組みの検討が必要ではないか。							

＜行政評価懇話会による評価・検証結果（外部評価）＞

内部評価結果に対する検証結果	内部評価を下回っている
理由	様々な取組みを進めていることは評価できますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、学童保育所の休園や各種事業の中止など、各種子育て支援サービスが低下した状況であったため、「評価B：概ね順調に進捗」とは評価し難いと考えます。
改善に向けた提言	<ul style="list-style-type: none"> ・市内にアフガニスタン人などの外国人居住者が増えており、言語ができるスタッフの配置や外国人向けの情報発信など、外国人も同様に市の子育て支援サービスが受けられるよう、環境整備を進めてください。 ・新型コロナウイルス感染症拡大による失職や勤務時間の減少等で、世帯収入が減った子育て世帯が多いことが想定され、ひとり親世帯への支援だけでなく、減収があった子育て世帯への支援など、広く子育て世帯全般への支援についても検討してください。 ・市民意識調査において「市の子育て支援サービスに満足していない」と回答した方の大半は、「サービスの周知が足りていない」ことを理由としております。子育てガイドブックやLINEによる情報発信など様々な媒体の活用はしているものの、引き続きサービスの周知がなされるよう努めてください。 ・子どもは乳幼児から保育園、その後小学校など、成長に伴い関わる機関が変化していきますが、特に必要な情報については共有がなされ、関係機関が連携して対応ができるよう、努めてください。
その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度から「こども支援部」という、子育て支援に特化した組織を立ち上げている点は評価できます。更に子育て支援サービスの向上がなされるよう、努めてください。

(2) 学校教育

<市による評価・検証結果（内部評価）> 基本施策評価シート

基本方針	4:豊かな心を育み笑顔あふれるまち(教育)		基本施策名	1. 学校教育	取りまとめ推進課		指導課	
					関係課		学務課、教育センター	
12年後の目指す姿	感性を豊かに働かせながら、自らの可能性を發揮し生涯にわたって学び続ける人間育成のための、学校教育における授業の質の向上を図り、個人の様々な能力を開花することができる教育を目指します。		施策に係るコスト(千円)		2年度	3年度	4年度	5年度
4年間の取組(施策の内容)	中・長期の教育指針である佐倉教育ビジョンに基づき、基本理念や目指すべき市民像の実現に向けて、各種教育施策を実施します。また、佐倉を素材とした道徳教材の作成や読書活動の推進、社会人活用やキャリア教育などの指導プログラムを実施し、子どもたちの心の居場所となる学校づくりを推進します。郷土佐倉に対する誇りや愛着を育むことを目的とする佐倉学を普及・定着させます。							
施策の評価	評価(A~E)	(施策の総括・成果)						
	C	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次佐倉教育ビジョンに基づき、「子どもが輝く」学校教育を推進しました。 ・小学5年生から中学3年生までを対象に佐倉市学習状況調査を実施しました。 ・成果指標について、「学習状況調査の平均正答率(活用力)」において初期値を上回りましたが、「学習状況調査の平均正答率(基礎学力)」及び「佐倉の歴史や自然に興味がある児童生徒の割合」については初期値を下回りました。新型コロナウイルス感染症により授業時数が若干減じたことが影響されたものと考えますが、評価はCとします。 						
新規又は重点的に行った取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、児童生徒の心のケアの充実のため、各校では教育相談の回数を増やしたり、スクールカウンセラーや心の教育相談員による相談業務の充実に努めました。 ・地方や他の市町村の学習では、常に佐倉市と比較しながら関連づけ、佐倉の魅力を児童生徒に伝えました。 	今後の改善策・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度は中止となった研修会については、オンライン等により実施することにより、教職員のさらなる指導力の向上を目指します。 ・地域に根差した体験的な学習や校外学習の充実を図り、佐倉の郷土愛を深めます。 					
成果指標の進捗状況①-1	指標名	初期値(H30)	目標値	達成状況				
	学習状況調査の平均正答率(基礎学力)	81.3%	目標値	2年度	3年度	4年度	5年度	
	(教育センター)		実績	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	
目標値の考え方・根拠	佐倉市学習状況調査における小学校1年生から中学校3年生を対象とした国語A、算数・数学Aの平均正答率。佐倉市学習状況調査作成委員会で目標とされた基準(90%)の平均正答率達成を目指します。 達成率：(実績値-初期値) / (目標値-初期値) × 100							
成果指標の進捗状況①-2	指標名	初期値(H30)	目標値	達成状況				
	学習状況調査の平均正答率(活用力)	70.3%	目標値	2年度	3年度	4年度	5年度	
	(教育センター)		実績	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	
目標値の考え方・根拠	佐倉市学習状況調査における小学校5年生から中学校3年生を対象とした国語B、算数・数学Bの平均正答率。佐倉市学習状況調査作成委員会で目標とされた基準(70%)の平均正答率達成を目指します。 達成率：(実績値-初期値) / (目標値-初期値) × 100							
目標値達成に向けての取組み	<ul style="list-style-type: none"> <基礎学力> ・【R2新規】小学校は新教科書に合わせ、問題の全面改訂 ・中学校は昨年度までの状況を踏まえ、問題の調整 <活用力> ・昨年度までの状況を踏まえて、問題の調整 		今後の改善策・方向性	基礎学力・活用力の向上に向け、課題となる内容を抽出し、指導方法の改善を促していけるよう、周知を図ってまいります。				
成果指標の進捗状況②	指標名	初期値(H30)	目標値	達成状況				
	佐倉の歴史や自然に興味がある児童・生徒の割合	61.1%	目標値	2年度	3年度	4年度	5年度	
	(指導課)		実績	67.0%	68.0%	69.0%	70.0%	
目標値の考え方・根拠	学校1年生から中学校3年生を対象とした学習状況調査において「そう思う」、「すこしそう思う」と回答した児童生徒の割合。年1%程度の増加を図ります。 達成率：(実績値-初期値) / (目標値-初期値) × 100							
目標値達成に向けての取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の指導において、常に佐倉と比較しながら関連づけ、佐倉の魅力を児童生徒に伝えた。 ・佐倉学研修会を定期的に開催し、郷土愛を育む指導方法について協議した。 							
目標値に達しなかった場合の要因	新型コロナウイルス感染症拡大による休校の影響により授業時数が減り、佐倉市と関連付けた丁寧な授業を展開することが要因と考えられます。		今後の改善策・方向性	佐倉の魅力を伝える授業の在り方について教職員の研修を重ねるとともに、授業においては佐倉学の充実に努め、児童生徒の郷土に対する関心を深められるよう努めます。				
内部評価結果(令和3年7月21日行政評価委員会)	妥当							

＜行政評価懇話会による評価・検証結果（外部評価）＞

内部評価結果に対する検証結果	妥当
理由	成果指標の達成状況などから、「評価C：半分程度は進捗」は妥当な評価と考えます。
改善に向けた提言	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の1クラスの人数について定員ぎりぎりの場合、教員に余裕がなくなり生徒に目が行き届かない等の状況が考えられ、基準人数だけではなく実態的に判断し、教員を加配する等の対策を検討してください。 ・佐倉学は歴史・文化が深い佐倉市ならではの取組みで推進すべきであるが、まだまだ認知度が高くないため、小中学校のみならず、高校でも実施するなど、より広く取組みを周知してください。 ・外国人世帯が増加しており、外国人の子どもへの支援について、日本語の理解度や学習の進捗状況などの実態に合わせ、適正な指導員の配置に努めてください。 ・新型コロナウイルス感染症拡大により世帯収入が下がり、塾に行けない子どもも増えています。塾ありきではなく、学校の授業で十分な教育や指導がなされるよう、子ども達に寄り添った教育に努めてください。 ・オンライン教育について、オンデマンドによるものと、双方向で行うものを使い分けるなどノウハウを蓄積し、充実化を進めてください。
その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路の安全対策について関係機関と連携し、着実に取り組んでいるものと評価します。今後も安全・安心に通学できるよう、点検・整備を進めてください。

(3) 商工業振興

<市による評価・検証結果（内部評価）> 基本施策評価シート

基本方針	3:地域の資源を活かした活力と賑わいのあるまち(産業・観光・文化)	基本施策名	1. 商工業振興	取りまとめ推進課		産業振興課			
				関係課		-			
12年後の目指す姿	誰でもアイデア一つで創業や新規事業を生み出す環境が整っており、市内のあらゆる場所でイノベーションが起こるまちを目指します。また、働きたい人がいつでも好きなときに働くことができ、事業者が必要な人材を常に雇用することができる労働市場の確立を目指します。加えて、市内事業者が積極的に設備投資を行うとともに、IoT等先端技術を活用し、効率的に事業を行うことができるまちを目指します。さらに、多様化する消費者ニーズに的確に対応した魅力ある店舗、商店会が増え、賑わいがあふれるまちを目指します。	施策に係るコスト(千円)	765,139	2年度	3年度	4年度	5年度		
				4年間の取組(施策の内容)	地域創業及び事業承継の促進に加えて、先端技術に関する企業を積極的に誘致し、外部から市内への人的、物的投資を呼び込みます。また、就業者の確保のため、国、県、関係機関と連携を図りながら、地域職業相談室での紹介を中心とした就業支援と就職セミナー等を開催し、職業能力の向上を推進します。加えて、市内及び近隣の高校と連携して、新卒者に対する市内企業の紹介に努めます。さらに、市内企業の競争力向上のために、設備投資の促進や販路拡大のための取組を支援します。				
施策の評価	評価(A~E)	(施策の総括・成果)							
	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症のため、創業支援事業、市内商工業啓発事業等、実施できなかった事業がありましたが、一方で事業者支援のため、事業者総合相談窓口の設置や、新型コロナウイルス感染症対策事業者支援事業、プレミアム付商品券発行支援事業等を実施したことにより、緊急事態に対応することができたと判断し、評価をBとします。 成果指標について「起業塾(入門編)受講者の創業者数」は初期値を下回りましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の要因が大きく、評価には大きく影響しないものと判断します。 							
新規又は重点的に行った取組み	【R2新規】新型コロナウイルス感染症対策として、事業者総合相談窓口の設置や、新型コロナウイルス感染症対策事業者支援事業(小規模事業者応援給付金、小規模事業者家賃支援金、市内消費喚起及び新しい生活様式推進業務委託料等)や、プレミアム付商品券発行支援事業を実施しました。	今後の改善策・方向性	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の状況に合わせ、事業者に対する支援策を講じることにより、市内経済の下支えから活性化まで行います。 新型コロナウイルス感染症拡大により実施できなかった事業について、順次再開し、当初の目的を達成できるように取り組みます。 						
成果指標の進捗状況①	指標名	初期値(H30)	目標値	達成状況					
	企業誘致助成金新規利用企業数 (産業振興課)	3社/年	目標値	2年度	3年度	4年度	5年度		
			実績	3社/年	-	-	-		
			達成率	目標達成	-	-	-		
目標値の考え方・根拠	企業誘致促進助成金または再投資促進助成金を新規に利用した企業の数。初期値からの増加を図ります。 達成率：(実績値/目標値) × 100								
目標値達成に向けての取組み	各工業団地の連絡協議会を通じて、再投資促進助成金の周知を実施。								
目標値に達しなかった場合の要因	-	今後の改善策・方向性	新たな事業用地の検討と既存企業への再投資促進助成金の周知に引き続き取り組んでまいります。						
成果指標の進捗状況②	指標名	初期値(H30)	目標値	達成状況					
	起業塾(入門編)受講者の創業者数 (産業振興課)	7人/年	目標値	2年度	3年度	4年度	5年度		
			実績	3人/年	-	-	-		
			達成率	42.9%	-	-	-		
目標値の考え方・根拠	受講者に対する追跡調査において、「創業した」と答えた人の数。初期値からの増加を図ります。 達成率：(実績値/目標値) × 100								
目標値達成に向けての取組み	<ul style="list-style-type: none"> 起業塾の周知(市HPでの掲載、自治会回覧、PRタイムス、千葉県産業振興センターの情報周知メールなど) 起業塾受講者へ電子メールで起業に関する情報周知(2回) 起業塾の開催については、新型コロナウイルス感染症の影響により例年通りの対面での実施が出来ず、例年2回開催のところオンライン開催1回。 								
目標値に達しなかった場合の要因	新型コロナウイルス感染症の影響により創業する方が減少したものと推測します。	今後の改善策・方向性	今後も創業支援事業を継続すると共に、創業希望者への支援策の照会や相談窓口の案内等のサポートを行ってまいります。						

成果指標の進捗状況③	指標名	初期値(H30)	目標値	達成状況			
				2年度	3年度	4年度	5年度
	地域職業相談室への市内相談者の就職率	11.8%	目標値	12.0%	13.0%	14.0%	15.0%
			実績	14.7%	—	—	—
	(産業振興課)		達成率	目標達成	—	—	—
目標値の考え方・根拠	就職件数(うち市内)／相談件数(うち市内)。初期値から3ポイント程度の増加を目指します。 達成率：(実績値-初期値) / (目標値-初期値) × 100						
目標値達成に向けての取組み	来所した求職者へのニーズを読み取り、ひとり一人に納得してもらえるまで支援を行いました。						
目標値に達しなかった場合の要因	—		今後の改善策・方向性	事業者への求人掲載の周知、市内求職者への地域職業相談室の紹介を引き続き継続して行います。			

<行政評価懇話会による評価・検証結果(外部評価)>

内部評価結果に対する検証結果	妥当
理由	成果指標の達成状況や、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う市内中小企業への支援策を多く打ち出したことなどから、「評価B：概ね順調に進捗」は妥当な評価と考えます。
改善に向けた提言	<ul style="list-style-type: none"> ・今後予定されている成田空港の第3滑走路開通に当たり、市内の商工業振興や雇用増が図れるよう、新たな施策を検討してください。 ・工業団地が既に埋まり、企業の新規誘致が難しい状況にあるため、新たな土地利用の検討について、関係部署と調整の上、進めてください。 ・起業塾など起業をこれからする方へのフォローは多く実施されているが、起業をした後の経営相談や補助などの支援が不足している感があるため、セミナー開催などのフォローアップ事業の実施について、検討してください。 ・スマートオフィスプレイス内のシェアオフィスを離れ独立していく企業について、市内への移転を優遇するなど市内定着を図れるよう、仕組みを検討してください。
その他意見	・令和2年度に多く実施した新型コロナウイルス感染症拡大に伴う市内中小企業への支援事業について、成果指標とはなっておらず、今後見直しをした方がいいのではないかと。

(4) 農業振興

<市による評価・検証結果（内部評価）> 基本施策評価シート

基本方針	3:地域の資源を活かした活力と賑わいのあるまち(産業・観光・文化)			基本施策名	2. 農業振興	取りまとめ推進課		農政課	
						関係課		佐倉草ぶえの丘、農業委員会	
12年後の目指す姿	農林水産業者の担い手が確保され、マーケティング力の向上により、収益増加が図られる環境が整備されている社会を目指します。また、チャレンジする人が活躍できる環境が整備されている社会を目指します。 農地の基盤整備により、スマート農業などが促進され、生産能力が十分に引き出されている農村社会を目指します。また、美しく伝統のある集落が未来にわたって継承される農村社会を目指します。			施策に係るコスト(千円)	477,375	2年度	3年度	4年度	5年度
4年間の取組(施策の内容)	農業を取り巻く社会状況の変化や農業者の個々の経営状況を捉えて、マーケティング力を高めたチャレンジする人が活躍できる環境を整備します。また、「美しく活力のある農村社会」を実現するため、農業と地域の活性化を一体的に進めます。					-	-	-	-
施策の評価	評価(A~E)		(施策の総括・成果)						
	B		<ul style="list-style-type: none"> 農業者が、減少傾向にある中、持続的な農業生産を維持するため、農業振興の推進に取り組みました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、農業啓発イベントの開催や農業者を対象とした研修会などの事業について中止せざるを得なくなりましたが、農業者に対して、コロナ禍における生産体制の強化支援や担い手育成支援、新規就農者支援などを行いました。 また、農業者を含む地域住民が共同で行う農地や農業用水等の保管理活動に対して支援を行いました。 これら、多くの事業により農業者や農業者団体に支援を行い、農業振興に大きく寄与したものと判断し、評価をBとします。						
新規又は重点的に行った取組み	<ul style="list-style-type: none"> 持続的な農業生産を維持するため、農地の基盤整備や担い手への農地集約など地域での話し合いの実施に向けて支援を行いました。 コロナ禍における農業生産減少の影響を受けた農業者の生産体制の強化と次期作への取組に対して支援を行いました。(R2新規コロナ対策) 			今後の改善策・方向性	<ul style="list-style-type: none"> 農業者の高齢化の進展や後継者不足等の課題に対応するため、引き続き、地域における話し合い等による地域の農業の在り方についての合意形成を図り、担い手等への農地の集積や農地の基盤整備など、営農活動が継続し得る環境を構築するために支援を行います。 				
成果指標の進捗状況①	指標名	初期値(H30)	目標値	達成状況					
	認定農業者件数	124件	目標値	2年度	3年度	4年度	5年度		
			実績	128件	132件	136件	140件		
	(農政課)		達成率	75.0%	-	-	-		
目標値の考え方・根拠	農業経営改善計画に基づいた営農を行う農業経営体数。地域農業における担い手の育成や強化を図ることで、基盤整備などを通じて得た農業資源継承と農業振興を図ります。 達成率：(実績値-初期値) / (目標値-初期値) × 100								
目標値達成に向けての取組み	認定新規就農者への制度周知(随時)								
目標値に達しなかった場合の要因	新型コロナウイルス感染症拡大により、周知の場となっていた新規就農者の会の総会が開催中止となったことが一因と考えられます。		今後の改善策・方向性	引き続き新規就農者への制度周知を図るとともに、認定を取得していない農家の方への制度周知を推進していきます。					
成果指標の進捗状況②	指標名	初期値(H30)	目標値	達成状況					
	多面的機能活動団体数	29団体	目標値	2年度	3年度	4年度	5年度		
			実績	29団体	30団体	30団体	30団体		
	(農政課)		達成率	目標達成	-	-	-		
目標値の考え方・根拠	農地維持支払交付金の交付を受けて農地、水路等の地域資源の基礎的保全活動を行う活動実施する団体数。初期値からの増加を図ります。 達成率：(実績値/目標値) × 100								
目標値達成に向けての取組み	新規に設立を希望している地域に対し、個別相談の受け付けや地域住民を対象とした説明会を実施。								
目標値に達しなかった場合の要因	-		今後の改善策・方向性	引き続き事業の周知を図るとともに、既存組織の活動継続を支援してまいります。					
内部評価結果(令和3年7月21日行政評価委員会)	妥当								

＜行政評価懇話会による評価・検証結果（外部評価）＞

内部評価結果に対する検証結果	妥当
理由	成果指標の達成状況などから、「評価B：概ね順調に進捗」は妥当な評価と考えます。
改善に向けた提言	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業者のマーケティング力向上のため、ホームページやYoutube 等による情報発信、配送方法のノウハウの指導や補助事業など、農業者の情報発信力や実践力を高めるフォローについて、検討の上、進めてください。 ・ ふるさと納税の返礼品において市の農産物が少ないため、市の特産であるアピールを含め、より多くの品の出品について検討してください。 ・ 市内産の野菜やフルーツなど、農産物のブランド化・差別化について、市内農業者が進めていけるよう、市を挙げて取組みを進めてください。

(5) 住宅・住環境

<市による評価・検証結果（内部評価）> 基本施策評価シート

基本方針	2:人と自然が調和した安心して暮らせるまち(都市基盤・住環境)			基本施策名	2. 住宅・住環境		取りまとめ推進課		住宅課		
							関係課		建築指導課		
12年後の目指す姿	だれもが希望する安全な住宅を選択でき、地域における支え合いやコミュニティにより、住み慣れたまちで安心して暮らすことができる住環境の実現を目指します。			施策に係るコスト(千円)		2年度	3年度	4年度	5年度		
4年間の取組(施策の内容)	<ul style="list-style-type: none"> 多様な世帯が安心して暮らすことのできる住宅施策やセーフティネットの構築を図ります。また、持続可能な地域コミュニティの実現を図りながら、良好な住環境の整備と住生活の実現を目指します。 安全で安心なまちづくりを進めるために、過去の建築確認申請情報等を有効活用し、情報提供を進めることで建築行政の適正化を推進します。 建築基準法における道路の取扱い等の都市基盤情報について、関係する各課と連携を図りながら一元化を進め、窓口のワンストップ化を進めます。 										
施策の評価	評価(A~E)			(施策の総括・成果)							
	B			<ul style="list-style-type: none"> 佐倉市住生活基本計画に基づき、各種住宅施策やセーフティネットの構築に取り組みました。中でも、空き家バンク及び住宅関係補助は、順調に実績を伸ばしました。一方で、社会現象的に増え続ける問題空き家への対応には、大変苦慮しています。そのため、成果指標の①と②を勘案し、評価をBとします。 建築確認の実完了検査率については、定期に受検の啓発通知を行うことにより、概ね順調に推移していると判断しています。また、都市基盤情報の一元化については、建築確認概要書などの保有情報の電子データ化を進めるとともに、道路情報に関するシステムを導入しました。一方で情報の他課との連携については、システム運用上の問題もあり実現は難しいと考えております。 							
新規又は重点的に行った取組み	<ul style="list-style-type: none"> 親世帯・子世帯が安心して暮らせて、かつ定住化促進となる近居同居代替支援事業補助は、前年比15%増加となりました。 【R2新規】空き家対策としての中古住宅解体新築支援事業補助に取り組みました。 【R2新規】指定道路システムの導入(佐倉市指定道路図電子化等業務委託)により紙台帳の電子化に取り組みました。 定期報告の提出率が他市と比較して低調であることから、率向上のためのさらなる啓発を実施する必要があります。 			今後の改善策・方向性		<ul style="list-style-type: none"> 空き家バンクや住宅関係補助は、現状の事業量等を維持する中で、より一層の効果が発揮されるよう、随時、制度の見直しを図ります。 増え続ける問題空き家については、財産管理人制度など新たな手法も検討しながら対応してまいります。 指定道路図の公開や電子申請への対応を通じて、利用者の利便性の向上や業務効率の向上を図ります。 建築確認の実完了検査率について、引き続き検査率向上のため取り組みを続けるとともに、未受検案件についてのフォローを行います。 報告対象施設の所有者・管理者等に、提出時期の事前案内文書、提出時期を過ぎた場合の催促文書送付等、提出率向上のための方策を実施します。 					
成果指標の進捗状況①	指標名		初期値(H30)	目標値	達成状況						
	空家率		9.2%	目標値	2年度	3年度	4年度	5年度			
	(住宅課)			実績	9.2%	9.2%	9.2%	9.0%			
			達成率	初期値以下	-	-	-				
目標値の考え方・根拠	空家率を算出する住宅土地統計調査は、5年に一度の調査で、初期値の9.2%は、平成25年の数値。平成30年度は、9.4%と増加しているものの、最終目標としては、初期値より減少させるものとします。 達成率：(実績値-初期値) / (目標値-初期値) × 100										
目標値達成に向けての取組み	<ul style="list-style-type: none"> 空き家相談事業(143件) ・空き家バンク事業(新規登録7件) 中古住宅リフォーム支援事業(96件) ・戸建賃貸住宅家賃補助事業(45件) 中古住宅解体新築支援事業(5件)【R2新規】 空き家パンフレットの作成 										
目標値に達しなかった場合の要因	実績値9.4%は平成30年度住宅・土地統計調査によるもの(5年に一度実施)。高齢化が進み同居世帯が増加している中、居住者の死亡や施設入所等により空き家となるケースなどが、空き家増加の一因と考えられます。			今後の改善策・方向性		佐倉市住生活基本計画の基本理念の実現に向け、各種住宅施策を実施してまいります。また同じく、佐倉市空家等対策計画の取組みを推進してまいります。					
成果指標の進捗状況②	指標名		初期値(H30)	目標値	達成状況						
	佐倉市を住みやすいと感じる市民の割合		74.9%	目標値	2年度	3年度	4年度	5年度			
	(住宅課)			実績	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%			
			達成率	目標達成	-	-	-				
目標値の考え方・根拠	市民意識調査による。「住みやすい・どちらかというと住みやすい」と感じる市民の割合を向上させます。 達成率：(実績値-初期値) / (目標値-初期値) × 100										
目標値達成に向けての取組み	<ul style="list-style-type: none"> 近居同居代替支援事業(150件) 結婚新生活支援事業(5件) 住宅改修相談(7件) 市営住宅管理運営(228戸) 										
目標値に達しなかった場合の要因	-			今後の改善策・方向性		佐倉市住生活基本計画の基本理念の実現に向け、各種住宅施策を実施してまいります。					
内部評価結果(令和3年7月21日行政評価委員会)	妥当										

<行政評価懇話会による評価・検証結果（外部評価）>

内部評価結果に対する検証結果	妥当
理由	成果指標の「佐倉市を住みやすいと感じる市民の割合」が目標達成をしていることなどから、「評価B：概ね順調に進捗」は妥当な評価と考えます。
改善に向けた提言	<ul style="list-style-type: none">・親世帯との近居・同居支援事業について、施策に貢献する取組みで実績も伸びているため、今後もより一層周知をし、取組みを進めてください。・南部地区などの農村部の農家住宅、古民家等について、移住し就農する方へ紹介するなどのマッチングを行う仕組みについて、検討の上進めてください。

(6) 環境保全

<市による評価・検証結果(内部評価)> 基本施策評価シート

基本方針	2:人と自然が調和した安心して暮らせるまち(都市基盤・住環境)	基本施策名	9. 環境保全		取りまとめ推進課		生活環境課	
					関係課		廃棄物対策課 土木管理課	
12年後の目指す姿	環境にやさしい暮らしや、環境に配慮した事業活動が実現した、安全・安心で快適なまちを目指します。また、印旛沼や谷津などの豊かな自然環境を、永く守り育てるまちを目指します。	施策に係るコスト(千円)			2年度	3年度	4年度	5年度
4年間の取組(施策の内容)	公害や不法投棄等の監視や早期解決に努めるとともに、市民や事業者が4R(リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル)の推進など環境に配慮した生活様式や事業活動を実践できるよう、啓発や支援を行います。 印旛沼やこれにつながる水系を保全するとともに、生物多様性の保全された、良好な自然を将来に渡って守り育てていくための取組を推進します。							
施策の評価	評価(A~E)	(施策の総括・成果)						
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次佐倉市環境基本計画に基づき、環境の保全等に取り組みました。 ・成果指標のうち「ごみ総排出量」については、新型コロナウイルス感染症拡大により、リモートワークの取り組みや不要不急の外出の自粛により在宅している時間が増加したことなども影響し、初期値に比べ増加し、目標を達成できませんでした。 ・成果指標のうち「環境基準適合率」「市役所の温室効果ガス(CO2)排出量」は令和2年度実績値が未公表であるため達成率を測定できませんでしたが、今年度公表された令和元年度実績値は初期値以上となっていることから、本施策は概ね順調に進捗したものと判断し、評価をBとします。 						
新規又は重点的に行った取組み	【H30~R元新規】東日本大震災以降の社会環境の変化や人口減少社会への移行、2030アジェンダ(SDGs)やCOP21におけるパリ協定の採択、生物多様性の保全への対応、気候変動への適応など、新たな環境課題に対応するために、「第2次佐倉市環境基本計画」及び「佐倉市一般廃棄物処理基本計画」を策定しました。	今後の改善策・方向性		各種事業の周知や啓発を進めていくとともに、施設の高効率化を推進し、公用車への次世代自動車の導入や施設への再生可能エネルギーの導入を進めてまいります。				
成果指標の進捗状況①	指標名	初期値(H30)	目標値	達成状況				
	生活排水処理率 (生活環境課)	92.9% (H29)	目標値	-	94.1%	94.5%	94.8%	95.2%
			実績	(参考) 93.3%	93.9%	-	-	-
達成率	-	83.3%	-	-	-	-		
目標値の考え方・根拠	公共下水道や高度処理型合併処理浄化槽の普及率。初期値からの増加を図ります。 達成率：(実績値-初期値) / (目標値-初期値) × 100 実績値は翌年度に公表のため、前年度実績値を記入。							
目標値達成に向けての取組み	・高度処理型合併処理浄化槽設置等事業補助金制度の実施							
目標値に達しなかった場合の要因	合併処理浄化槽を新たに設置した世帯及び単独処理浄化槽から合併処理浄化槽へ転換した世帯の数が、想定よりも少なかったため。	今後の改善策・方向性		限られた財源を活用して多くの世帯が合併処理浄化槽設置等工事に取り組んでいたように1世帯当たりの補助単価を見直すとともに、引き続き補助制度の周知に取り組んでまいります。				
成果指標の進捗状況②	指標名	初期値(H30)	目標値	達成状況				
	ごみ総排出量 (廃棄物対策課)	51,398t	目標値	△	49,589t	48,698t	47,768t	50,000t以下 (47,026t)
			実績	△	52,888t	-	-	-
達成率	△	初期値以下	-	-	-	-		
目標値の考え方・根拠	市内から排出される生活系と事業系のごみの総量。一般廃棄物処理基本計画に基づき排出量を抑制させます。 達成率：(初期値-実績値) / (初期値-目標値) × 100							
目標値達成に向けての取組み	4R(リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル)の啓発を行いました。							
目標値に達しなかった場合の要因	新型コロナウイルス感染症拡大により、リモートワークの取り組みや不要不急の外出の自粛により在宅している時間が増加していることが一因と考えられます。	今後の改善策・方向性		コロナ禍において従来の生活様式が変化しています。現状を踏まえ4R(リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル)の啓発を行っていきます。				

成果指標の進捗状況③	指標名	初期値(H30)	目標値	達成状況				
				元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
	環境基準適合率 (生活環境課)	98.2% (H29)	目標値	-	98.2%	98.2%	98.2%	98.2%
		実績	(参考) 98.2%	未測定	-	-	-	
		達成率	-	未測定	-	-	-	
目標値の考え方・根拠	各項目ごとの環境基準の適合状況の割合。現状においても高い水準で達成されているため、現状の維持を目指します。 達成率：実績値が初期値以上の場合、目標達成 実績値は翌年度に公表のため、前年度実績値を記入。							
目標値達成に向けての取組み	・環境に配慮した行動に関する周知 ・法令に基づく事業所・工場などへの指導の実施							
目標値に達しなかった場合の要因	-	今後の改善策・方向性	引き続き、周知や指導を実施してまいります。					
成果指標の進捗状況④	指標名	初期値(H30)	目標値	達成状況				
				元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
	市役所の温室効果ガス(CO2)排出量 (生活環境課)	13,573t-CO2 (H29)	目標値	-	12,459	12,165	11,871	11,577
		実績	(参考) 12,990	未測定	-	-	-	
		達成率	-	未測定	-	-	-	
目標値の考え方・根拠	第二次佐倉市地球温暖化対策実行計画の目標を達成するため削減を図ります。 達成率：(初期値-実績値) / (初期値-目標値) × 100 実績値は翌年度3月頃に公表のため、前年度実績値を参考として記入。							
目標値達成に向けての取組み	・施設の空調設備、照明設備の改修 ・施設の高効率化の推進							
目標値に達しなかった場合の要因	-	今後の改善策・方向性	施設の高効率化を推進するとともに、公用車への次世代自動車の導入や施設への再生可能エネルギーの導入を進めてまいります。					
内部評価結果 (令和3年7月21日行政評価委員会)	妥当							

<行政評価懇話会による評価・検証結果(外部評価)>

内部評価結果に対する検証結果	内部評価を下回っている
理由	成果指標のうち実績値の公表がまだされておらず達成度の測定ができないものもありますが、全体として達成状況が思わしくないことから「評価B：概ね順調に進捗」とは評価し難いと考えます。
改善に向けた提言	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭ごみの分別一覧表について、掲載されておらず分別に困るものも多くあることから、載せきれないものについては市のホームページに掲載するなど、市民にわかりやすい仕組みを検討してください。 ・公用車へ電気自動車等の次世代自動車の導入について、環境保全や防災対策の観点からメリットがあることから、導入の実現に向け、努力してください。 ・佐倉市の自然の象徴である印旛沼の水質について、引き続き改善がなされるよう取組みを進めてください。
その他意見	・SDGsについて、環境保全分野における啓発の強化を進めてください。

(7) 情報発信・共有、広聴

<市による評価・検証結果（内部評価）> 基本施策評価シート

基本方針	5:市民とともに創る多様性のある持続可能なまち(市民参加・自治体運営)		基本施策名	3. 情報発信・共有、広聴	取りまとめ推進課		広報課	
					関係課		秘書課、地域創生課、行政管理課、情報システム課	
12年後の目指す姿	地域の魅力を効果的に情報発信し、佐倉市の知名度向上を図ります。また、市民が必要な情報を必要ときに得られる、公正で開かれた市民主体の市政を目指します。		施策に係るコスト(千円)		2年度	3年度	4年度	5年度
					274,579	-	-	-
4年間の取組(施策の内容)	市内外へ佐倉市の魅力をPRする取組を強化するとともに、各広報媒体間の連携を含めた一体的な活用により、情報発信の充実と、市民生活における利便性の向上を図ります。また、市が保有する情報資産の一覧化やデータの整備、拡充に努めるとともに視認性に優れた情報検索方法を研究し、市民が必要とする情報について、個人情報保護に留意しながら積極的な提供を進めます。市民意見の集約・一元管理を進め、その分析と活用を進めるとともに、市民意見の市政への反映状況について、さらなる周知を図ります。							
施策の評価	評価(A~E)		(施策の総括・成果)					
	B		<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大を受け、市の情報発信に大きな注目が集まりました。市公式ウェブサイトでは日々新しい情報を発信しましたが、発信にあたってはプル型の特性を考慮し、メール配信やtwitter、ヤフーアプリなど、プッシュ型の媒体と組み合わせた発信を行いました。また、更新タイミングを広報紙の発行と合わせるなど、インターネットを活用できないかたとの情報格差が生じないように配慮しました。 ・市民意見について内部のシステム化を進め、3月に稼働しました。 ・成果指標について「市民の声が市政に反映されていると思う市民の割合」は目標値を下回りましたが、初期値より4.5%伸びていることから、悪い数値ではないと評価しています。 以上のことから、本施策は概ね順調に進捗しているものと判断し、評価をBとします。					
新規又は重点的に行った取組み	【R2新規】特設サイトを開設。将来に希望が持てる情報を発信しました。 【R2新規】公式twitterを本格的に運用しました。 【R2新規】佐倉市公式LINEを立ち上げ、新型コロナウイルス・子育て施策関連の情報発信を開始しました。 【R2新規】佐倉市UIJターン相談窓口を設置しました。 【R2新規】市民の声システムを稼働し、業務を効率化しました。		今後の改善策・方向性	・新型コロナウイルスの情報は日々変化しており、市公式ウェブサイトを中心とした情報発信に努めるとともに、佐倉市の魅力をPRしていきます。 ・情報公開について積極的な情報提供を推進するとともに、佐倉市が保有する個人情報の取扱いを一層留意していきます。 ・市政へのご意見等受理から回答(対応)までの進捗管理をより丁寧に行うとともに、市民自らが市政に関する情報を取得しやすい情報環境を整えていきます。				
成果指標の進捗状況①	指標名	初期値(H30)	目標値	達成状況				
	ホームページ(全体)アクセス件数	約718万アクセス	目標値	2年度	3年度	4年度	5年度	
	(広報課)		実績	800万	842万	883万	924万	
			達成率	1,745万	-	-	-	
目標値の考え方・根拠	初期値(実績値)から約30%のアクセス数向上を目指します。 達成率：(実績値-初期値) / (目標値-初期値) × 100							
目標値達成に向けての取組み	【R2新規】新型コロナウイルスによる新生活に寄り添うサイト「ほっとすまいる佐倉」を制作。定期的な情報発信を行いました。 【R2新規】公式twitter「いいね！佐倉市」の運用を行い、フォロワー数5,000人を達成しました。							
目標値に達しなかった場合の要因	-		今後の改善策・方向性	目標値は新型コロナウイルスの影響により達成したものです。引き続き魅力ある情報発信を進め、真の目標達成を目指します。				
成果指標の進捗状況②	指標名	初期値(H30)	目標値	達成状況				
	市民の声が市政に反映されていると思う市民の割合	13.6%	目標値	2年度	3年度	4年度	5年度	
	(秘書課)		実績	20.0%	25.0%	30.0%	35.0%	
			達成率	18.1%	-	-	-	
目標値の考え方・根拠	市民意識調査による。初期値から約20%向上を目指します。 達成率：(実績値-初期値) / (目標値-初期値) × 100							
目標値達成に向けての取組み	・市民の声に寄せられた意見と担当部署による回答をウェブサイトに掲載(概ね月1回更新)							
目標値に達しなかった場合の要因	「わからない(どちらともいえない)」という回答の割合が多いことから、市の取り組みを十分に発信できていないことが一因と考えられます。		今後の改善策・方向性	今後もウェブサイトでの積極的な事例紹介に取り組んでまいります。				
内部評価結果(令和3年7月21日行政評価委員会)	妥当							

<行政評価懇話会による評価・検証結果（外部評価）>

内部評価結果に対する検証結果	内部評価より優れている
理由	SNSやYouTube、LINEなど、多様な媒体による情報発信に積極的に取り組んで市の魅力発信に努めており、「評価B：概ね順調に進捗」を上回り、施策の進捗に良く努めているものと評価します。
改善に向けた提言	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年9月に日経BP総合研究所が運営しているサイトで公表した「シティブランド・ランキング住みよい街2021」において、「快適な暮らし」分野で佐倉市が全国1位となっており、これを有効にアピールし、移住者の増加に向けた取組みを進めてください。
その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページアクセス件数を成果指標としているが、SNSによるタイムリーな情報発信や、YouTube等の映像による発信など、情報の質や中身が問われているものと考えます。 ・南部地区への移住者の生活を紹介する番組など、佐倉市が持つ色々な地域資源をアピールしていくことで、関心を持つ人が増え、移住者の増加にもつながるとよいのではないかと。 ・市HPにおいてオンラインにより申請を受けたり、チャットボットを用いて定型的な質問は答えられるようにすることも、住民サービスの向上につながるとともに職員の負担を減らすことができ、有効ではないかと。

佐倉市行政評価懇話会委員名簿

(五十音順、敬称略)

No.	氏名	経歴等	分野	備考
1	飯塚 香奈子	元 佐倉市スポーツ推進委員	市民公募	
2	稲垣 かおる	元 佐倉市市民リポーター	市民公募	
3	小川 真実	千葉大学社会科学研究院 教授	大学	委員長
4	栗田 智	千葉県印旛地域振興事務所 所長	行政機関	副委員長
5	泉水 宏之	株式会社 千葉銀行佐倉支店 支店長	金融機関	
6	立崎 貴子	株式会社 常盤植物化学研究所	産業界	
7	藤本 健太郎	株式会社 広域高速ネット二九六	メディア	

任期：令和2年10月1日～令和4年6月30日

佐倉市スマートオフィスプレイスの事業報告

(平成30年度 地方創生拠点整備交付金・地方創生推進交付金事業)

事業目的

本事業は、コワーキングスペースとシェアオフィスを備えた施設を整備することで、テレワーク等の多様な働き方を促進すること、若者はもちろんのこと、育児中の主婦や定年後も働く意欲をもつ高齢者等、あらゆる方が起業にチャレンジできる環境を整備することを目指している。

このことにより、市民生活における仕事と生活の調和を図るとともに、市内に新事業と新たな創業者を数多く生みだし、新たな雇用の創出と地域経済の活性化を図ることを目的とした事業である。

施設概要

○H31.4月オープン。愛称「CO-LABO SAKURA」(コラボさくら)
 ○京成ユーカリが丘駅 徒歩3分
 ○小規模のシェアオフィスが6室、テレワーク用のコワーキングスペース、シェア工房、会議室
 ○R2年度より指定管理者(山万グループ)による管理運営となり、佐倉市民の割引プラン、学生割引プランを導入し、利用者増。
 新型コロナウイルス感染症対策への一助ともなっている。

交付金内容

①地方創生拠点整備交付金

交付額 41,785,000円

総事業費 86,743,204円

(内訳)

- ・建築工事 内装工事, 間仕切り工事, 建具工事 等
- ・電気設備工事 照明設備工事, 配線設備工事, 機械警備設備工事 等
- ・機械設備工事 空調設備工事, スプリンクラー設備工事, 換気設備工事 等

②地方創生推進交付金

交付額 7,232,977円

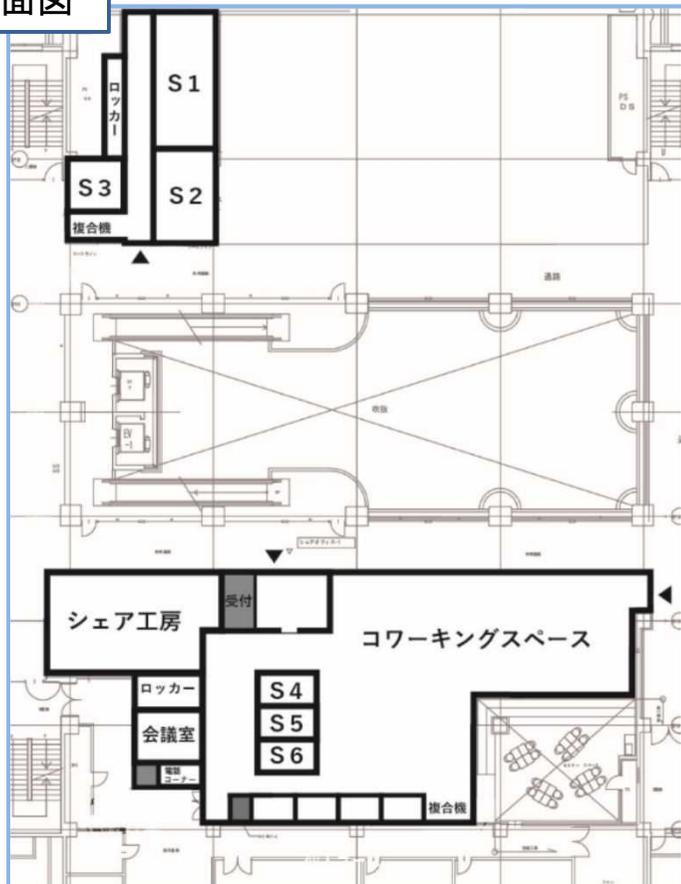
総事業費 15,288,873円

(内訳)

- ・家具 机, 椅子, 受付カウンター 等
- ・工具 レーザー加工機, ドライバードリル 等
- ・電気製品 電子錠コントローラー, スイッチングハブ 等

重要業績評価指数 (KPI)	令和元年度 (目標値)	令和元年度 (実績値)	令和2年度 (目標値)	令和2年度 (実績値)	令和3年度 (目標値)	令和3年度 (実績見込)
本事業の取り組みによる新規の起業者数	3	1	4	4	6	6
本事業の取り組みによるテレワーク就業者の増加数	2	2	3	12	3	27
コワーキング・シェアオフィス・会議室・工房利用者の増加数	50	28	25	135	25	14

平面図



料金体系

CO-LABO SAKURA 料金表

(税込)

月額料金		オプション
一般	6,600円	ロッカー兼メールBOX 3,000円/月 <small>※法人利用、法人登記・住所利用可</small>
佐倉市民優待	5,500円 <small>※佐倉市民に限る</small>	レーザー加工機 660円/30分 <small>※料金体系一本化</small>
ナイトプラン	3,300円 <small>※17時～20時半</small>	コピー機 白黒 10円/枚 カラー 30円/枚 <small>※従量課金制</small>
ウィークエンドプラン	3,300円 <small>※土日祝限定</small>	会議室 500円/h
学生優待	2,200円 <small>※小学5年生～大学生 (中学生以下は初回利用時に随時条件を記載して下さい)</small>	
ドロップイン (一時利用)		法人プラン
1時間	300円	従量課金制 ドロップインに準拠 <small>※初回手数料無し / ICカード代 300円/名 要</small>
以降、30分毎に	150円	月額固定制 9,900円 <small>※初回手数料無し / 2名迄 / ICカード代 300円/名 要</small>
4時間半以降	1,500円	(1人追加毎に) 3,300円

利用実績

	R元年度実績	R2年度実績	R3年度 実績見込 (R3年1月末)
シェアオフィス	5	6	5
コワーキング(月額利用)	23	157	172
コワーキング(時間利用)※延べ人数	128	90	93

※各年度末月実績